

隠蔽された先進科学技術を悪用した法規制のない新たな犯罪が増えています！

テクノロジー犯罪 Stop! electronic harassment

電磁波や超音波などの不可視媒体を使用した犯罪。それは、特定個人を標的として付け狙い、監視しながら身体に様々な影響を与え、生活を破壊していきます。目に見えない媒体を使用しているため、被害認識を持たないまま、苦痛な人生を強いられる被害者も存在します。世界中に多くの被害者が存在しますが、精神疾患と誤認され、自殺に追い込まれる等、社会的にも苦況を強いられてきました。

50 余年に渡り研究されるマイクロ波兵器について語るのは、元 MI5 (英国諜報機関) の勤務歴を持つ**マイクロ波の専門家 Barrie Trower 博士**です。男性の性的攻撃性や自殺衝動を誘発する周波数、優柔不断や無気力にさせる他、癌や心臓疾患等あらゆる病気を引き起こします。精神疾患と言われる症状をも作り出し、精神科へ誘導し、残りの人生を精神病院で過ごすこともある、「それこそが成功です」と話します。病気でもないのにです。



科学技術の進歩

- 第2次世界大戦中、米軍のレーダー施設でマイクロ波パルスが脳内に音として認識される聴覚効果が観測されています。これは後に「フレイ効果」と呼ばれ、現在は米国Sierra Nevada社により軍事兵器MEDUSAに応用されています。
- 米国Honeywell社は、人間の前意識を計測しニューロンの活動電位を監視して、人工衛星を経由する画像によりターゲットを区別するシステムを構築しました。
- 軍事や医療、教育、産業等に活用する技術として、日本を含めた世界数力国でBMI(ブレインマシンインターフェイス)という脳介機装置の開発が進んでいます。
- ナノチップ、RFIDチップ、クラウドデータベースによる人体情報管理も世界数力国で報告されています。

2012 年 12 月アメリカで放送された元ミネソタ州知事のドキュメンタリー番組 Conspiracy Theory with Jesse Ventura, episode "Brain Invaders" 《脳侵略者》



《被害内容は多岐に渡ります》

身体への痛み・痒み・刺激、内臓の痛みや生理機能の操作、音声や音の送信、思考や五感の読み取り、脳活動への介入、意識のコントロール(マインドコントロール)、自分の意思と無関係に身体を操作される、電化製品の異常・操作、等

ぜひご一読を！

電子洗脳
あなたの脳も攻撃されている
ニック・ベギーチ博士(著)
内田 智穂子 (翻訳)



海外では「エレクトロニックハラスメント」と呼び、2014 年には元アメリカ国家安全保障局高官かつ CIA コンサルタント他、医学、法律、技術の専門家なども参加して、国際会議「COVERT HARASSMENT CONFERENCE 2014」を開催。日本では認知さえも遅れています。

アメリカ

2011 年 3 月、生命倫理の問題に関するアメリカ大統領諮問委員会で被害者に発言の場が与えられました。2004 年にミシガン州、メイン州、マサチューセッツ州で一部法規制。(出所 : Wikipedia Electronic harassment)被害者団体 FFCHS(Freedom From Covert Harassment and Surveillance) の JamesWalbert 氏は、裁判で犯罪を立証し勝訴しています。

ロシア

2001 年、下院がマイクロウェーブ、超音波、超低周波、光を武器に相当すると認める法案を可決し、プーチン大統領が署名しています。

フランス

1998 年、国家生命倫理委員会にて思考を読み取ることができる段階にある神経科学の進展に注意喚起を表明しています。

アジア

中国や台湾では、電磁波や超音波による脳内への音声被害が既にメディア報道されています。

テクノロジー犯罪の認知と法規制が必要です



集団ストーカー被害者の会ネットワーク

<http://gsti.web.fc2.com/>

